

<白金標準先物、3902 円で底固めし 4100 円へ・・・>



(出所：オアシス)

中国の上海市や北京市の感染拡大は抑え込まれ、厳格的な市内全域のロックダウンは避けられているが、部分的なロックダウンは実施されている。特に中国の5月の自動車生産台数は前月比で59.7%増の192万台、販売台数も同比で57.6%増の189万台とサプライチェーンの回復を示唆するなど、中国の触媒需要は堅調な動きを示している。またWPICのポールソン氏は、プラチナ鉱山の増産が難しい環境下で、世界のプラチナの10%の供給を誇るロシアの供給が制裁に伴い不確実性が高く、またパラジウムの触媒需要の代替商品として急速な見直しがされており、現在の19.4トンの供給過剰予想は年後半には覆す可能性が高いと述べている。特にNYマーカンタイル取引所におけるプラチナ指定在庫でも昨年11月25日の18.7トンから先週末で9.9トンまで減少するなど、ロシアのウクライナ侵攻を受けた中国の引き合いが強まっており、リースレートでも5月に10%まで上昇を行なうなど、現物市場でのひっ迫感が表面化してきている。そのため3902円で底値を確認し、4310円へ向けた上昇過程の域の値動きと思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下げながら、シグナルも下げるなど下向きの値動きが予想される。RCIでは短期が下げ止まり、長期はプラスサイドを維持している。ただ10日移動平均線が下げながら、日足の戻りが抑えられた動きを示しており、10日移動平均線を日足が超えるまで戻り売りの値動きには注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引1,230,000円(2022年6月20日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復37,620円(2022年6月20日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-3249-8827(受付時間:平日8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>